

豪州における柔道実践者の保護者に対する意識調査

曾我部 晋 哉*
山 崎 俊 輔*

A Survey of Child' s Overall Judo Environment in Australia

Akitoshi Sogabe, Shunsuke Yamasaki
キーワード：教育 オーストラリア 武道

I. 諸言

柔道は、日本で発祥した近代オリンピック種目のひとつであり、現在では欧州を中心に発展している(Nippon Budokan, 2009)。1899年、柔道の前身である柔術のクラブ(Bartitsu Club)がイギリスに初めて設立され、1948年にはイギリスが中心となってヨーロッパ柔道連盟を設立した(Bowen, 2011)。今や世界の中で最も柔道登録人口の多いフランスの柔道であるが、フランス国内では柔道よりも先にイギリスから持ち帰った柔術クラブが設立されていることを鑑みると、欧州では柔術や柔道の発展にイギリスのもたらした影響は大きい。現在のフランスでは、競技スポーツとしての柔道もさることながら子どもの教育として柔道が普及している。実際にフランス柔道連盟登録者数約63万5千人のうち、0歳～11歳までの登録者数が58.9%を占めている(曾我部ら, 2017a)。1931年までイギリス領であったカナダにおける柔道に対するイメージを調査した報告によると、「器用」、「謙虚」、「清潔」「我慢強い」「真面目」など肯定的に捉えている(曾我部ら, 2107b)。更に、柔道を子どもに習わせる理由として「発育に良い」「護身のため」「体力づくり」「自己コントロールができるようになる」「礼儀正しくなる」など、柔道は児童期に身に付けるべき重要な要素を含んでいる、と報告している(曾我部ら, 2107b)。また、柔道は発育・発達のみならず、国家の移民受け入れ政策によって生じる教育の不均衡を解消するため

に重要な役割を担っていることも指摘している(曾我部ら, 2107a)。

そこで本研究では、オセアニアのイギリス連邦の加盟国であるオーストラリアにおいて、柔道を行わせている保護者は柔道に対してどのようなイメージを持っているのかを明らかにすることを目的とした。

II. 方法

1. アンケート配布方法

調査方法は2015年7月1日～8月31日の間、オーストラリアのパース周辺の道場に対して、指導者を通じ12歳以下の柔道実践者の保護者を対象に、13項目の「子どもを取り巻く柔道環境に関するアンケート」を配布し、現地もしくは郵送にて回収した。

2. アンケート内容

「子どもを取り巻く柔道に関するアンケート」の内容は以下の通り。

質問1. How do you think about image(s) of judo and /or judoka? あなたは「柔道」「柔道家」についてどのようなイメージを持っていますか?

質問2. How do you think about other people around you have image(s) of judo and /or judoka? 世間の方々(あなたの周りの人)は「柔道」「柔道家」についてどのようなイメー

*甲南大学 スポーツ・健康科学教育研究センター

ジを持っていると思いますか？

質問3. What do you expect your child to learn (achieve) from judo practice? 柔道を習わせる理由は何ですか？

質問4. What motivate you to have your child to practice judo? What was the cue? Because … 柔道を習わせたきっかけは何ですか？

質問5. Have you observed changes your child made after continuing judo practice? 柔道を習わせたことで子どもに変化がみられましたか？

質問6. What do you expect your child's judo instructor to teach? 柔道の指導に何を期待しますか？

質問7. How much of judo technical and tactical knowledge do you have? 柔道の技術的な知識についてどの程度持っていますか？

質問8. How often do you and your child discuss judo techniques and strategies at home? 家庭内で子どもと柔道の技術的なことについて話をしますか？

質問9. How much knowledgeable are you in terms of judo history, ethics, and morals? 柔道の歴史・倫理・道徳に関する知識についてどの程度持っていますか？

質問10. How often do you and your child discuss the topics of judo history, ethics, and morals at home? 家庭内で子どもと柔道の歴史・倫

理・道徳に関することについて話をしますか？

質問11. Do you practice judo? 保護者自身は現在柔道を実施していますか？

質問12. Do you observe (or listen to) your child wrestling playfully with friends in daily? 子どもの環境で、柔道以外に周りの友達とお互いに組んだり押しあったりする機会は多いですか？

質問13. Do you think it is important to wrestle playfully with friends from a young age? 幼少期に友達同士で組み合ったり押しあったりすることは大事だと思われますか？

以上の項目を集計し、度数分布をグラフ化した。

Ⅲ. 結果

1. 対象者の特性について

回答者数78名（男：35名 女：43名, 43.7 ± 6.6歳）の職業は以下の通り。

表1. 回答者の職業

会社員	自営業	パート	学生	専門職	教職	公務員	専業主婦	無職	その他
25	14	9	7	8	4	3	2	1	11

(人)

2. 保護者に対する柔道のイメージ

質問1～13の集計結果を以下に示す（図1～図13）。

質問1：あなたは「柔道」「柔道家」についてどのようなイメージを持っていますか？

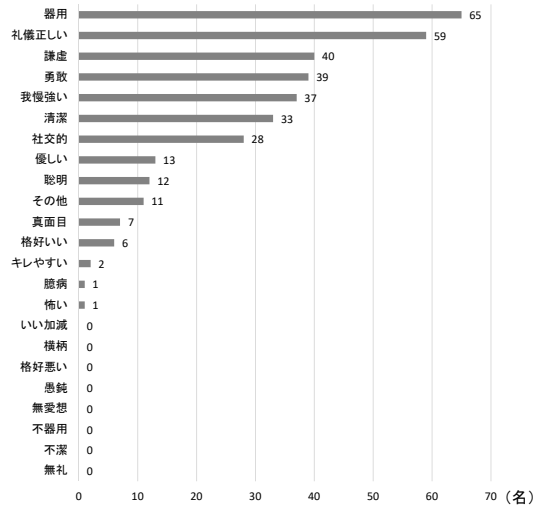


図1. 「柔道」「柔道家」のイメージについて

質問2. 世間の方々（あなたの周りの人）は「柔道」「柔道家」についてどのようなイメージを持っていると思いますか？

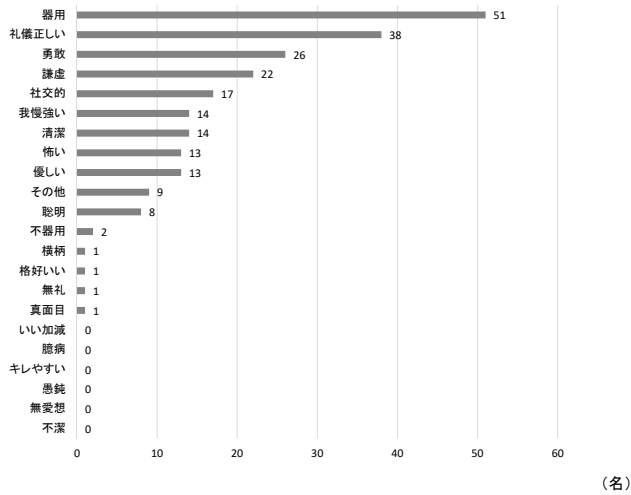


図2. 世間の「柔道」「柔道家」のイメージについて

質問3. 柔道を習わせる理由は何ですか？

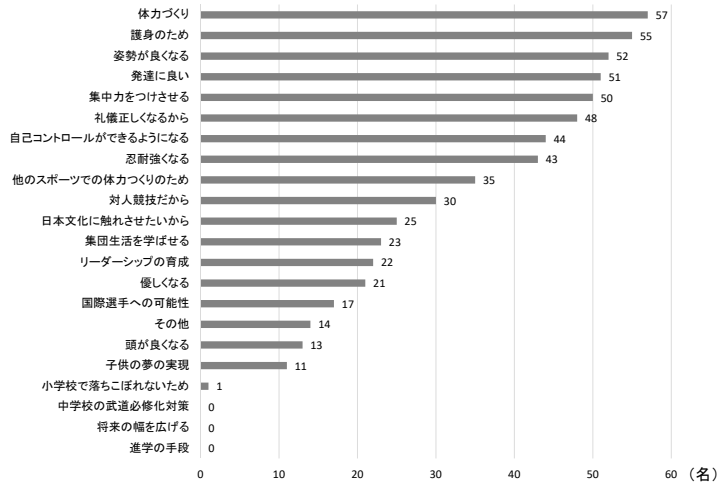


図3. 柔道を習わせる理由

質問4. 柔道を習わせたきっかけは何ですか？

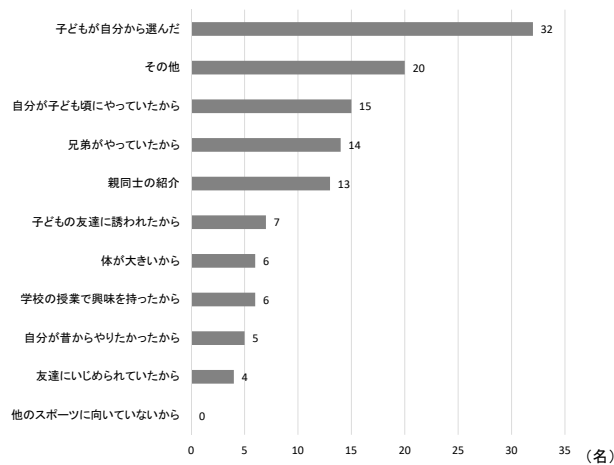


図4. 柔道を習わせたきっかけ

質問5. 柔道を習わせたことで子どもに変化がみられましたか？

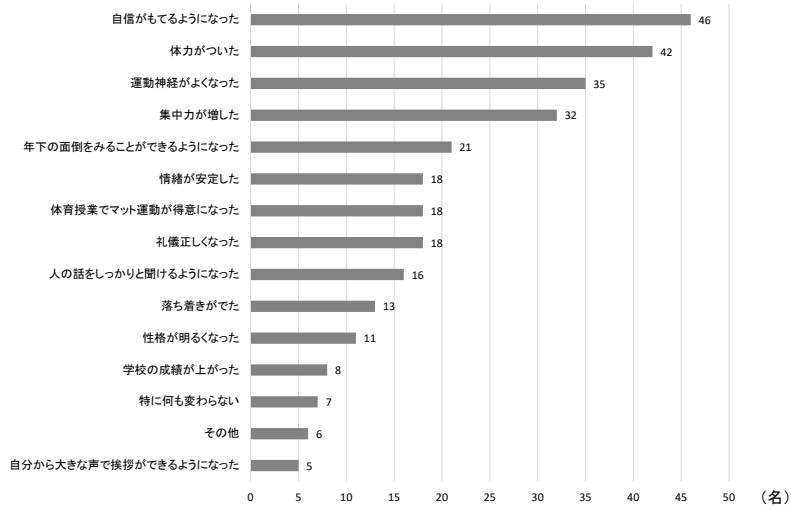


図5. 柔道を習わせたことによる子どもの変化

質問6. 柔道の指導に何を期待しますか？

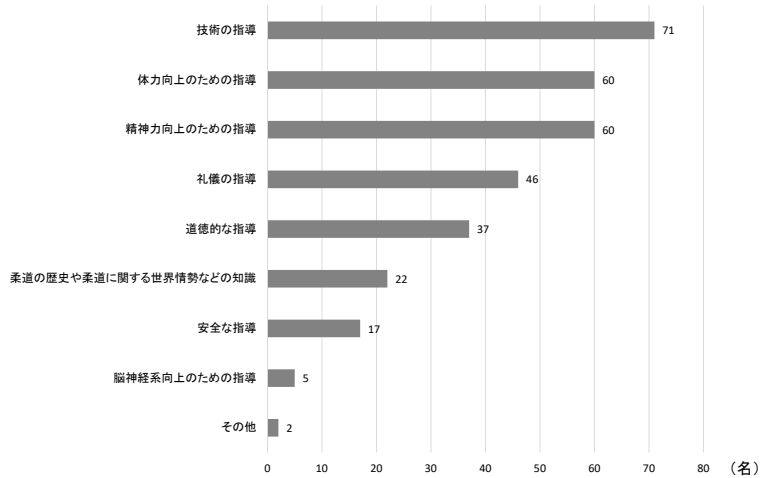


図6. 柔道指導へ期待すること

質問7. 柔道の技術的な知識についてどの程度持っていますか？

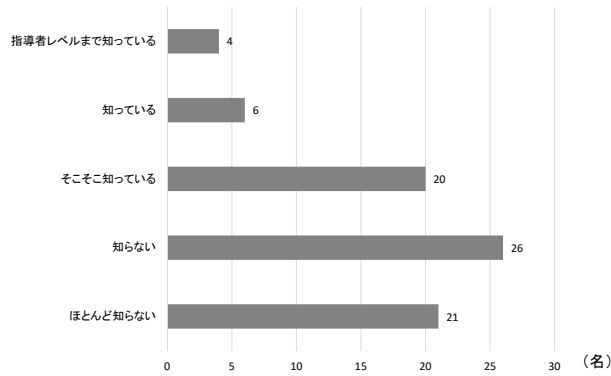


図7. 柔道の技術的な知識の程度

質問8. 家庭内で子どもと柔道の技術的なことについて話をしますか？

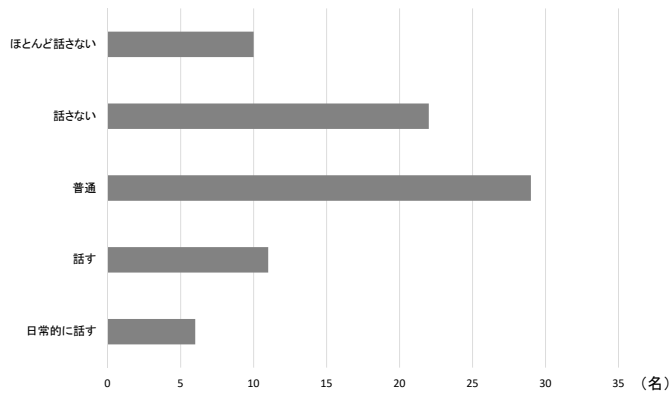


図8. 家庭内での子どもとの柔道技術に関する会話の程度

質問9. 柔道の歴史・倫理・道徳に関する知識についてどの程度持っていますか？

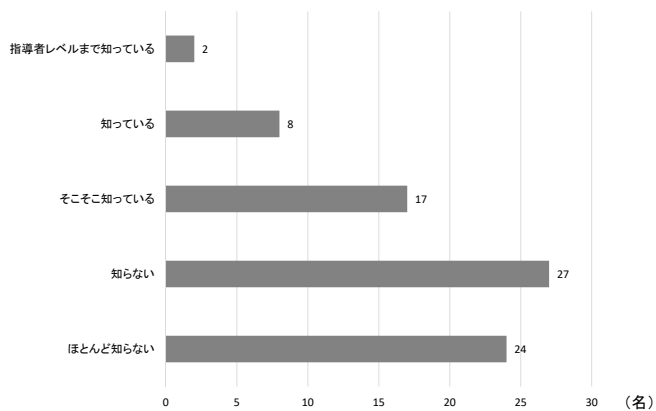


図9. 家庭内での子どもとの柔道倫理に関する知識の程度

質問10. 家庭内で子どもと柔道の歴史・倫理・道徳に関することについて話をしますか？

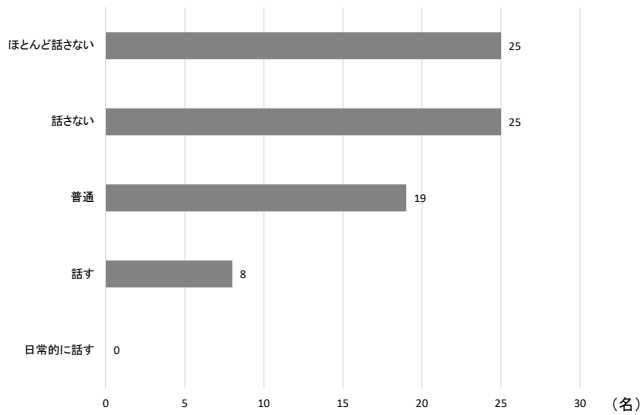


図 10. 家庭内での子どもとの柔道倫理に関する会話の程度

質問11. 保護者自身は現在柔道を実施していますか？

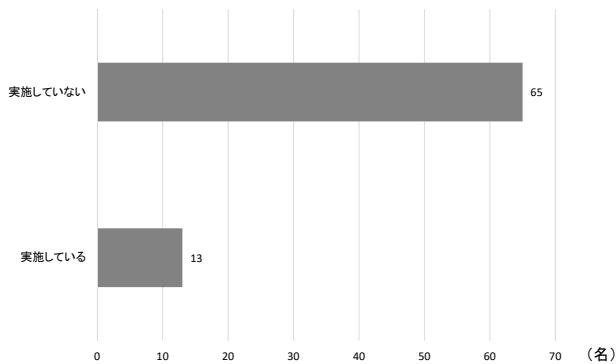


図 11. 保護者自身の現在の柔道実施の有無

質問12. 子どもの環境で、柔道以外に周りの友達とお互いに組んだり押しあったりする機会は多いですか？

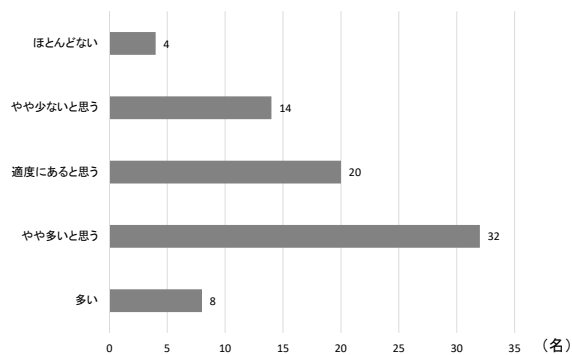


図 12. 柔道以外の組み合う機会の程度

質問13. 幼少期に友達同士で組み合ったり押しあったりすることは大事だと思われますか？

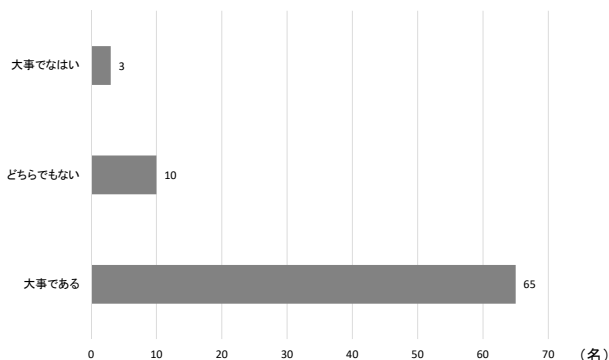


図 13. 組み合うことの重要性について

IV. 考察

1. 柔道に対する主観的評価と客観的評価

オーストラリアにおける柔道実践者の保護者の「柔道」や「柔道家」に対する主観的なイメージは、「器用」「礼儀正しい」「謙虚」「勇敢」などの肯定的な回答が多く（図1）、世間からはどのように思われているかという客観的評価についても否定的な回答はほとんどない（図2）。つまり、主観的評価と客観的評価の間にギャップが少ないために、自身の子どもにもまた、他人の子どもにも推奨できる「習い事」が柔道であると言える。しかし、オーストラリアで柔道を習うきっかけとして「子どもが自分から選んだ」という回答が最も多く、子どもの意思決定権が高いことがうかがえる（図4）。また、柔道を習わせる理由として、「体力づくり」の他に「護身のため」が上位に回答されている（図3）。我が国の同様の調査では、「礼儀正しくなる」という回答が最も多く「護身のため」という理由はその半数以下である。実際に、柔道の指導に期待している最も高いものが「技術の指導」であり、「礼儀の指導」よりも大きく上回っている。また、柔道を習わせたことの変化については、「自信が持てるようになった」という回答が多く、カナダの調査とも同じ傾

向がみられた（図5）。

2. 「柔道」をツールとした子どもと保護者との関わり

保護者自身が柔道を行っている割合が少なく、全体の16.6%である（図11）。そのため、柔道に対する技術的な知識も53.2%の人が「知らない」「ほとんど知らない」と回答している。同様に、柔道の歴史・倫理・道徳に関する知識についても66.2%の人が「知らない」「ほとんど知らない」と回答している。つまり、保護者の柔道に対する技術並びに知識提供の場が少ないために、家庭で話すべき内容である柔道の倫理的な部分についての会話が少なくなってしまうのではないかと考えられる（図10）。特に、外国では技術的な部分以上に、武道としての精神的な部分が欠けてしまう可能性があるために、何らかの対策を講じる必要がある。

3. 子どもの組み合う機会について

2012年には「幼児期運動指針」が策定され、特に幼児期には、力の加減やタイミングをコントロールする能力が高まる時期であるとのことから、基本的な運動を習得しておく必要性について指摘されている（文部科学省、2012）。その中でも相手と組み合わせ押し引きをする動作は、他の球技等では得ることができない。

我が国で行った調査では、柔道以外に周りの友達とお互いに組んだり押し合ったりする機会は、「やや少ない」「ほとんどない」と回答した人が64.7%であったのに対し、オーストラリアでは23.1%にしか過ぎない(図12)。つまり、日本では、極端に相手と組み合わせる機会が乏しい現状が明らかであり、逆に我が国こそ幼少期に柔道を通じた相手の力を感じあえる機会を増加させていかなければならないのではないかと考えられる。

V. まとめ

本調査は、オーストラリアにおける12歳以下の柔道実践者の保護者に対して、柔道に対する意識調査を行った。柔道実践者の保護者も世間も柔道に対しては肯定的なイメージを持っており、また、礼儀や精神的な部分も重視するが、護身的な観点からも柔道は有用であるととらえているようである。また、柔道以外にも、子ども達が相手と組み合ったりする機会が日本よりも多いことが明らかになった。

参考文献

- Bowen, Richard (2011) : 100 Years of Judo in Great Britain, Vol.2, IndePenPress, p.366
- 文部科学省幼児期運動指針策定委員会 (2012) : 幼児期運動指針ガイドブック～毎日、楽しく体を動かすために～
- Nippon Budokan (2009) : Budo; The Martial Ways of Japan, Nippon Budokan Foundation, Tokyo, 123-260
- 曾我部晋哉, 瀧本誠 (2017a) : ドイツ・フランス柔道連盟教育普及施策調査報告. 第57回研究調査報告. 全国高等学校体育連盟柔道専門部, 4-22
- 曾我部晋哉, 山崎俊輔 (2017b) : カナダにおける子どもを取り巻く柔道環境に関する調査. スポーツ・健康科学教育研究センター論集 (21), 33-38

